

大学・大学院	2003年5月	6月	7月	8月	9月	10月
5/17 学園創立記念日 5/17 後援会総会・教育懇談会 5/26 留学生別科修了式			7/5 大学院文研・現研・コミ研(10月入学)入試 7/29 前期授業終了	8/12～17 夏季休業	9/1 留学生別科入学式 9/25 学部・大学院卒業式 9/26 大学院入学式 9/29 学部後期授業開始 大学院後期授業開始	11/2・3 淑楓祭
【高等学校】	5/8 遠足 5/13 運動クラブ保護者会 5/16 創立記念式典	6/3 球技大会 6/20 文化クラブ発表会 6/28 父母の集い	7/18 1学期終業式		9/1 2学期始業式 9/6 高等学校見学会 9/28・29 学園祭	10/1 体育祭 10/25・26 私立学校展
【中学校】	5/6～10 中2林間学校(A・B班各2泊3日/飛驒小坂淑友館) 5/8 遠足 5/16 創立記念式典 5/24 オープンスクール	6/20 文化クラブ発表会 6/28 父母の集い	7/18 1学期終業式	8/1・2 私立中学校進学フェア	9/1 2学期始業式 9/26・30 学園祭	10/27～29 修学旅行(沖縄)

# 平成15年度入試結果

## 愛知淑徳高等学校

実質競争倍率は1.6倍に

推薦入学試験実施日

1月30日(木)  
一般入学試験実施日 2月7日(金)  
入学者総数 391人

・本校の推薦入試は指定校推薦、公募推薦の2種類で行われておりますが、公募推薦は本年も募集定員を上回ったため、成績・活動歴・特技・面接による総合評価で選考が行われました。

・一般入試は1343人の志願者があり、実質競争倍率は1.6倍となりました。一般入試の結果は表の通りです。

科目	平均点
国語	65.7(72.3)点
数学	54.1(51.8)点
英語	62.9(71.7)点
計	182.7(195.9)点
合格最低点	174(185)点

\* ( )内は昨年度。

## 愛知淑徳中学校

2 4科選択制入試始まる

本校の入試は今年も2月の第1日曜日、2月2日に実施しました。

本校を含めた他校の入試日程は、金城学院中と聖霊中が2月1日(土)、椋山女子学院中が本校と同じ2月2日(日)、滝中が9日(日)として南山中女子部(が11日)建国記念日でした。

4年ぶりに滝中と南山中(女子部)が併願可能となり、本校が2、4科選択制に切り換えたことから、志願者・受験者の動向はここ2、3年のそれとは大きく異なるものとなりました。

その一つは愛知県における小6の児童数が底にきているにも関わらず、女子の志願者は各校とも増加していること。一つは女子志願者で4科での受験者を大幅に増やす結果になったこととなります。

これらの状況の中で、本校への志願者は962人、受験者は930人となり、志願者・受験者とも3年前の状況に戻りました。また、4科での受験者が2科での受験者の2.2倍となりました。

選抜状況はまず第1段階選抜全

受験者対象、国・算の2科目合計200点で選抜(で合格者340人を出しました。この内訳は、2科での受験者52人、4科での受験者288人でした。次に、第2段階選抜4科での受験者で先の選抜に漏れた者対象、国・算・社・理の4科目合計300点で選抜(として、残りの62人の合格者を出しました。繰り上げ合格者を32人出

しましたので、合格者は最終的に434人となり、実質競争倍率は2.1倍となりました。

第1段階選抜の合格最低点は133点、第2段階選抜の合格最低点は200点で、共に得点率は約67%でした。

入学者は最終的に200人となりました。

### 入試科目と時間・配点・受験生の平均点

科目	時間	配点	受験生の平均点
国語	50分	100点	47.8(53.9)点
算数	50分	100点	75.0(59.8)点
社会	60分	50点	37.1点
理科		50点	32.6点

\* ( )内は昨年度。ただし100点満点に換算。

### 合格者の平均点と最高・最低点

科目	平均点	最高点	最低点
国語	58.9点	88点	36点
算数	85.0点	100点	60点
社会	40.0点	49点	34点
理科	35.8点	49点	27点

\*第1段階選抜と第2段階選抜を合わせたすべての合格者を含めたもの。

## エクステンションセンターだより

### 児童文学講座 夢とロマンがいっぱい

愛知淑徳大学教授 堀尾幸平

児童文学講座の熱気はすごい。子どもたちへの愛のメッセージである童話、児童文学に賭ける受講生たちの「やるぞ!」の情熱と気魄がみなぎっていて圧倒される。

お母さん、学校や音楽教室の先生、元保育士、専業主婦、人生経験豊かなOG、現役OL、かつての文学少女から元歌のお姉さんまでさまざまな人たちが集まってきて、十年來の知己のごとく仲よく楽しく学んでいます。

エクステンションセンターが取りもつた、新しい出会いと新鮮で刺激的な交流。新しい時代の新しいライフスタイル、生涯学習が、ここではいきいきと輝いている。「児童文学」は児童のための文学。「童話」は児童のための話。みな、自ら身につけた児童文学論(観)によって、愛する子どもたち

め、童話づくりに励んでいる。ファンタジー童話、民話、昔話、児童話、冒険、動物、ミステリー童話まで。主題、題材も現代の世相を反映して千差万別、百花繚乱はとさせられる傑作が書かれた時など、みんな感動して思わず拍手、みんな喜び合っています。各種コンクール、懸賞に応募して、家アレも珍しいものはない。ここから、やがて、日本の児童文学史の中にしっかりと位置づけられる名作も必ず生まれてくるにちがいないという確かな手応え、予感がする。どうしても童話作家としてデビューしたいです。と正直に宣言するお嬢さんまで、ほほえましい。

童話作家になる必須条件は、次の三点に要約される。

- 一、熱意、情熱を継続する。
- 二、理論、基礎的な勉強をする。
- 三、童話の人間関係。仲間たち、指導者に恵まれる。

いま、愛知淑徳大学エクステンションセンターには、この三点がみごとに調和し、整っています。児童文学に賭ける受講生たちの目は、夢とロマンに燃えています。だから勉強が何よりも楽しい。将来が楽しみで、私の胸は今日もときめいています。(堀尾)



堀尾教授



児童文学講座の講義風景